


教育事業 「青少年教育指導者等の養成及び資質の向上」

事業名	青少年教育施設ボランティアスキルアップセミナー ボランティアツーリスト キャンプとかしき～夏の思い出～	
実施期間	平成23年7月9日(土)～10日(日)	
担当者	企画指導担当及びボランティアコーディネーター 上條弥生	

I 事業の趣旨

青少年教育施設のボランティア養成事業は、青少年にボランティア活動の魅力を伝え、ボランティア活動の世界への橋渡しをするという役割と養成したボランティアを受け入れ、ボランティア活動の機会を提供する役割がある。

これを踏まえ、当施設で養成したボランティアに対し、教育事業、研修支援事業におけるボランティア活動の機会の提供とボランティア活動のフォローアップやステップアップとして、これまでの活動で培ったノウハウをもとに主体的に企画、実践し、ボランティア活動の魅力と橋渡しを図る事業を実施している。

II 事業の概要

1 事業の目的

本事業は、青少年教育施設がボランティア育成に求めるコンセプトとボランティアが参加者に求めるコンセプトが混在するため、2つのコンセプトを設定し、その役割を明確にしたい。

○ボランティア育成のコンセプト

ボランティア同士が連携して、主体的に企画・運営、指導するプログラムの実践をとおして、子どもたちを育成する事業の魅力を感じ、ボランティアとしての意識の向上を図る。

○参加者に求めるコンセプト

集団宿泊体験をとおして心ふれあう仲間づくり、渡嘉敷の海や豊かな自然と親しむワクワク体験キャンプ。

2 参加対象及び募集人員

小学生4・5・6年生 60名程度
中学生 40名程度
ボランティア 15名

3 参加状況

小学生58名、中学生12名 計70名
ボランティア・・・15名

4 実施上の留意事項

(1)運営について

独立行政法人国立青少年教育振興機構における法人ボランティア養成共通カリキュラム修了者を対象に、募集したボランティアによって当事業の企画委員会を発足した。4月に開催した「とかしきボランティアスクール」ではこの事業を踏まえての研修進行であったが、事業終了後よりボランティアの募集を開始、担当との企画会議を事前に2回、事後に1回、またボランティア同士での会議は隔週定期的に行われた。企画の中心になるメンバーに新規ボランティアと過年度の経験豊富なボランティアが決まったことによって、新しい発想もある中、安全管理や基本的な事業運営については先輩ボランティアのアドバイスがスムーズに進行していく手助けとなった。

(2)健康管理について

朝のつどいや活動中に健康管理、体調チェックをボランティアが中心に行った。また、活動中、随時水分補給を促して熱中症予防に努めた。

(3)安全管理について

野外活動では、活動前にオリエンテーションで危険事項等の注意を促し、安全に活動が出来るようボランティアを中心に役割分担、職員は全体を把握しながら、共に管理・安全監視を行った。

5 活動のようす

1日目(7月9日)



《オープニングの様子》



《工夫を凝らしたオリエンテーション》



《ボランティア企画によるプログラム①仲間づくり》



《本日の我が家：テント設営》



《いよいよご飯を作ります！》



《仲間と協力して炊飯活動》



《自分たちで出来ました！》

2日目（7月10日）



《スタッフ会議の様子》



《入水前に記念撮影》



《待ちに待った海へ漕ぎ出します！》



《ボランティア指導のもとオープンカヤックに乗るぞ》



《片付けも習いながら》



《皆で協力できました》



《海辺のクラフト体験》



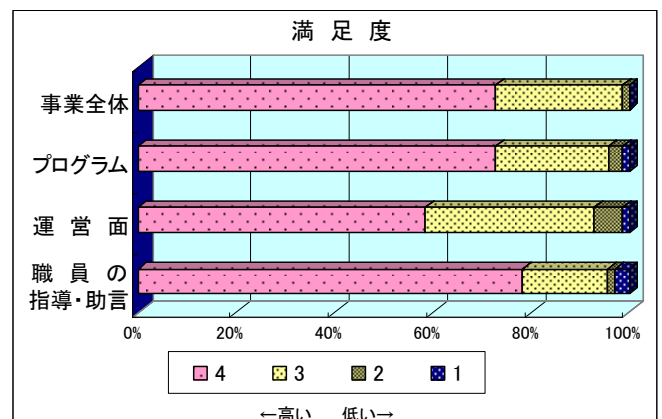
《エンディング：中学生、小学生の代表が感想を発表》



《港にて見送り》

6 アンケート結果

(1) 満足度 (小中学生参加者)



(2) 参加者の声

《良かった点》

〈小学生・中学生〉

- いろいろなプログラムがあって楽しかった。
- 海も星もきれいで、生き物や自然もあってよかったし、他の学校の子と友達になれた。
- これまであまりテントを張ったり、ご飯を作ったりしたことがなかったから、いろいろできて楽しかった。
- 自然と触れ合え、新しい友達と協力して作業するのは楽しかった。
- 自分は夜に弱いことがわかった。いい経験だと思った。

〈ボランティアの声〉

- 無事に終わった。臨機応変に対応できたことはよかった。
- 自分自身が楽しめた。子どもたちの「楽しかった」が聞いてよかった。
- つどいなど、集合する場面での成長が見られた。
- 裏方としての動きが大切であると感じた。
- 子どもたちの指導が初めてで、素顔に感動した。
- 指導の大変さ、まわりを見る大切さ、事前会議（準備）の大切さがわかった。
- 子どもに対してアクションを起こすと反応が返ってきた。

《改善すべき点》

〈小学生・中学生〉

- ▲ 少し時間が短かった。
- ▲ 班のスタッフが自由に過ぎて、ちらかしたりすることがあって困った。
- ▲ 海での時間をもっと増やしたほうがいい。
- ▲ （運営の）時間を守るべきだと思った。
- ▲ 集まるのが遅い。みんなうるさかったりして遅かった。

〈ボランティアの声〉

- ▲ 事前会議に遠方者が集まらない。それぞれの担当に対する責任感が不足している。
- ▲ プログラムの確認ができていないときがあり、時間に追われた。班担当への連絡のとり方。
- ▲ 子どもたちの希望とプログラムの時間調整が課題。
- ▲ 自分自身の体調管理ができていない。
- ▲ 子どもたちに対する言葉の使い方や指示の出し方、プログラムの進め方に検討が必要。
- ▲ 荒天時について詳細まで決めておくべき。

討・役割分担、チラシの作成・広報、しおりの作成、当施設のフィールドを活かしたキャンプ運営まで、ボランティアが積極的に企画・運営を行った。事業当日は、荒天時対応でプログラムの変更等あったが、臨機応変に対応できていた。運営についても1日目のミーティングでの反省を活かし、2日目にはスタッフ間の連携のとり方、子どもたちに対する指導の仕方等、短期間の中にも成長が見られた。

②については、小学生、中学生が様々な活動をとおして異年齢交流ができ、上級生がリーダーシップをとり、皆で協力して集合時間やルールを守るようになった等の成長が見られた。また、新しい仲間と共に自然体験活動の魅力を感じたことが、「もっと良かった」、「楽しかった」等の感想や、帰りの船舶での他団体との積極的な交流のきっかけに繋がったと考えられる。

2 今後の課題

この事業の要でもあるボランティアの事前会議について、今後、多くのボランティアが参加でき、より万全の準備・調整ができる状況をつくれるように、事前準備を重視したボランティアの指導を行う。

また、船舶での安全管理、貴重品の管理等、危機管理を徹底するとともに、小学生対象の事業において、参加費徴収の方法を検討すべきである。

IV おわりに

今回の参加者の様子から、新しい仲間と出会い、関わることの楽しさを実感した様子が伺われた。このような機会に挑戦する子どもたちは、キャンプや自然体験活動、またそれを運営するスタッフに対する期待度が非常に高く、それに応えられるような事業の工夫・スキルが必要である。今後、各教育事業のボランティア活動や指導者養成研修等で経験を積み上げていく中で、ボランティアが教育指導者としてスキルアップすることは、事業自体の質を上げることにも繋がる。当青少年の家のフィールドの素晴らしさ・教育の面白さを体感した彼らだからこそできる教育事業が今後さらに発展していくよう支援していきたい。

III 成果と課題

1 事業の成果

今回の事業は、①ボランティアのスキルアップと意識の向上、②子どもたちの集団宿泊体験をとおしての仲間との交流・自然体験活動の魅力を感じるという2つの目的があった。

①については、5月のボランティア企画会議におけるコンセプトの決定から始まり、プログラム内容の検